

CLOSE UP!



■説明は
徳島大学病院
周術期管理センター
センター長
田中 克哉
(たなか かつや)

患者さんへ ひとこと

手術を受けられる患者さんはいろいろと不安なことがあると思います。我々は、各部署が連携を取りあって安心して安全な手術が受けられるように努力しています。お困りごとがあれば遠慮なくお声をおかけ下さい。

周術期管理センターについて

手術を受ける患者さんは様々な不安をお持ちだと思います。本院では、患者さんに安心・安全に手術を受けていただけるよう、外科医師だけではなく多職種が連携しサポートを行う「周術期管理センター」を設置しています。今回はセンター長の田中先生にお話を伺いました。

○ 周術期管理センターについて



「周術期」とは、手術を受ける患者さんの「手術前・手術中・手術後」の期間のことです。手術を安全に行うためには、周術期において、外科医師だけではなく、麻酔科医師、内科医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士など、様々な職種が連携し、患者さんをサポートする必要があります。本センターでは、多職種での連携と情報共有を円滑に行い、患者さんに安心・安全に手術を受けていただくことを目指しています。



周術期管理センターのスタッフ

○ 本院での取り組み

術前は、受診科からの手術の説明に加え、術前の検査、麻酔科の診察、内服薬の確認など、患者さんは不安を抱えながら短時間に多くの部署を回らなければならず、負担をおかけしています。本センターでは、多職種で連携し情報共有することで、術前の説明や検査を効率化し、患者さんの負担を軽減できるよう努めています。

また、術後の痛みに対してより充実したサポートを行うため、術後疼痛管理チームが昨年発足しました。術後の痛みは患者さんも非常に気にされていることだと思います。本院では、アプリを使って疼痛管理を行うシステムを導入しています。本システム導入前は鎮痛薬の投与にバルーンを用いており、患者さんが痛みを感じた際には看護師を呼び、看護師が投与を行っていました。しかし、本システムでは、医師が投与量や投与回数、投与間隔などをあらかじめ設定しておき、患者さんが痛みを感じた際に、ご自身がスイッチを押すこ

とで、決められた量の鎮痛薬が入っていきます。それらの情報はアプリで確認でき、患者さんの痛みもデータで可視化されます。またバルーンと違い非常に小型のポンプ式なので、患者さんの行動を妨げず術後をより安心・快適にお過ごしいただけます。



アプリを使った疼痛管理システム

○ 今後の活動について

今後の目標は、本センターによる患者さんへのサポートをもっと増やすことです。

また、長時間となり負担をおかけしている術前の説明について、動画でも見られるよう、QRコード付きのパンフレットを作成する予定です。手術に関する説明を聞く際

は不安も多く、一度では理解できないこともあるかと思いますが、ご自宅など落ち着いた状況で動画をご覧いただくことで、患者さんの安心と負担軽減につながればと思っています。